

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

「日本と問題点と税」

長岡市立西中学校

三年 五十嵐 護

私は今の日本の大きな問題点は、一年間の税収と比べて、支出がとて大きいことだと思う。このままでは、国民が安心して生活するためにある公共サービスの質が下がり、国民の生活のレベルが下がってしまうかもしれない。国民の生活のレベルが下がると、健康に生きることができなくなり、日本の産業が衰退し、日本が存続の危機にさらされてしまうということも考えなければならなくなる。

こうなることを防ぐために、一刻も早く消費税の十パーセントへの引き上げを進めるべきだと思う。消費税を十パーセントに引き上げることで、今よりも多くの収入を確保することができ、公共サービスの低下を免れることができる。

消費税の引き上げを進めるべきだと思う理由は他にもある。日本は超高齢社会に突入した。これからも高齢者が増え、年少者が減っていく。高齢者が増えると、年金や介護などの社会保障にかかるお金が増えると予想することができる。高齢者の社会保障の充実は、今までの日本を作ってきたくてくれてありがとうという感謝の気持ちを伝える意味合いも含んでいる

と思う。だから、削ることはできないはずだ。よって、消費税の引き上げを進めなければならないのだ。

消費税の引き上げをするに当たって、国はしなければならぬことがある。それは、引き上げ前の国の財政の現状と問題点、引き上げ後の試算と問題点は解決されるのかどうかを国民に示さなければならぬ。私自身、国の財政の現状は、今回この作文を書くに当たり配布された資料で初めて知った。このような現状では国の財政をよく知っていないため消費税の引き上げがスムーズに進まないのも当たり前だと思う。国民に示すものとして、ホームページなどにおけるのではなく、新聞やテレビなどのメディアを活用した方が有効だと思う。情報の開示と丁寧な説明を行うことで、国民の理解は得ることができると思う。

また、私は、地方消費税の割合は各都道府県によって違っても良いと考える。なぜなら、その都道府県によって環境が違い、必要になるお金の量も変わってくると思うからだ。例えば新潟県や豪雪地帯の県は、冬場は雪が積もるため除雪費用が必要となってくる。このように環境に合わせて税を設定すれば、より充実した公共サービスを提供することができるのだと思う。

今回、この作文を書いて税のあり方についてよく考えることができた。私は、税もその環境や時代の変化に対応し、国民にとって最も適当なものであるべきだと思う。日本をこれから繁栄させ続けるために、固定概念にとらわれず、税のあり方について全国民が考える必要があるのかもしれない。

